

「琉橋」への挑戦

第3回 WUB世界大会

▷4◁

第三回WUB(ワールドワイド・ウチナンチュ・ビジネスアソシエーション)世界大会のホスト役を務めたWUB北米。「ちゃんとした組織がないうちにホスト役を引き受けた」とノーラン比嘉会長が振り返るように、昨年までほとんど活動はしていなかった。しかし、今回のホスト役を契機に全米各地から会員が集まり、会員数五十人を有する最も活動的な組織の一つとなった。

比嘉会長はWUB北米スタッフの米国での高い信頼度や、積極的な勧誘活動で、これまで真人間の活動にあまり参加しなかった人たちの掘り起こしに成功。会員には、米政府の外交関係に携わる者や大学教授、医師、弁護士、設計士、シリコンバレーでソフト開発会社を経営する者など多彩な人材が集まった。

北米WUBは、WUB世界大会の期間中に北米会員の合同会議を開き、北米をワシントンDCやニューヨークを中心としたイーストコースト支部、シカゴやイリノイを中心としたミッドルwest支部、アトランタやジョージアを中心としたサウスアメリカ支部、サンフランシスコを中心とした北カリフォルニア支部の四支部に分け、本部をロサンゼルスとすることを決めた。

多彩な人材のWUB

ネットワーク構築も検討

情報総合コンサルタント業を営むWUB北米事務局長の多和田真友氏は「全米は広いので、会員が集まり会合を開くことは難しい。四支部に分けて機動性を高めた。また、ユタヤ人の集まりが多いので、ユタヤ人の集まりを積極的に活用したい」と語った。

大会では、各国代表からインターネットによるネットワーク構築の重要性が報告された。呉屋守将WUB沖縄会長は「WUBの活動に沖縄は重要な役割を果たす。沖縄をベースとした情報を発信しウチナンチュのきずなを強めたい」と語り、WUB東京の重田辰弥会長も「同じウチナンチュでも住んでいる国や背景で考え方が違う。相互理解の意味からもインターネットを利用して時間と場所のハンディを克服すべきだ」と語った。

一方、WUBで現在ホームページを開設しているのは、WUB本部、北米、沖縄、東京の四カ所。すべての支部を網羅したホームページの開設についても話し合った。(政経部・宣保 靖)



第3回世界大会のホスト役を果たしたWUB北米のノーラン比嘉会長(写真左から2番目)。大会最終日は、各国代表から感謝の意を込めて記念品などが贈られた(ラズベガスのホテル)